令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 田島小学校 ）　　学校番号　３１

【様式】

目指す学校像	自ら考え進んで行動する「強い子」の育成　　凡事徹底、一歩前進、チーム田島小学校！

重点目標	１　子どもを主語にした教育活動の推進 ２　子どもが安心・安全に過ごせる環境の整備 ３　田島小コミュニティ・スクール２年目としての成長に向けた家庭・地域・学校の連携推進 ４　ICT の有効活用と子どもの学びの向上を実現する校内研修の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月９日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を下回っている。 ○市の学習状況調査において、国語、社会、理科が好きと回答する児童の割合は市平均より高い。 ＜課題＞ ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「読むこと」及び算数の「データの活用」等、「思考・判断・表現」を問われる設問を不得意とする児童が多い。 ○特に高学年において算数への関心が高まっておらず、算数を学習する楽しさや達成感を味わえるようにすることが課題である。	・教育 DX による学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善	①全教員による「ICT の有効活用」をテーマとしたキャリアステージに応じた公開授業（年２回）を管理職が参観し指導助言を行う。 ②学校での習熟場面や家庭学習において、各種デジタル教材などを活用し、子どもが自分のペースで学習に取り組めるようにする。	①全ての教員が ICT の有効活用をテーマとした公開授業を年間２回実施できたか。 ②学校や家庭において、スタディサプリやドリルパークなどに取り組ませることができたか。	①ICT を有効活用した「読解力向上」や「個別最適化」を目指した実践を教職員一人あたり２回以上行った。事後に授業分析記録等を基にした管理職による指導助言を行った。 ②児童生徒の端末活用調査において肯定的回答（ほぼ毎日、週３回以上）の割合が 86.5%と非常に高く、スタディサプリやドリルパークを含め、児童が各種デジタル教材などを活用して学習に取り組んでいる。	B	・来年度からの学校課題研修を通して、「指導の個別化」と「学習の個性化」の両面から個別最適な学びについて教職員間での共通理解をしっかりと図り、よりよい実践を積み重ねていく。	・ICT を十分に活用するなど教育環境を生かした学習活動の様子を直接参観して感動した。 ・基礎学力をしっかり身に付けさせてほしい。各教科において読む力や表現力を付けるためにも、読書を意識付けさせたい。また、データ活用などでは、身近な生活と結び付けるとよいのではないか。 ・教師と児童の評価のギャップを埋めるためにも、低学年のうちから表面的な楽しさではなく、「分かる楽しさ」を味わわせてほしい。
		・子どもが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる授業スタイルの確立	①全学年において一部教科担任制を導入した「田島スタイル」を実施し、学びの質の向上を実現する。 ②児童が自分の考えをもち、表現する時間の確保をし、個別最適化、アクティブラーニング型授業を実施する。 ③市教委による学力向上カウンセリング学校訪問等を活用する。	①全学年において、一部教科担任制による授業を実施することができたか。 ②学校評価アンケートにおいて、授業の楽しさ（児童）、学力向上（教職員）に関する項目についてそれぞれの肯定的な回答をする割合を向上できたか。 ③教職員が児童の学力状況を把握、分析し、授業改善や指導支援に生かすことができたか。	①高学年の教科担任制に加え、低中学年でも一部教科担任制を実施し、教師が教材研究を深めたことで、児童の学びの質の向上につなげられた。 ②学校評価アンケートの学力に関する項目についての肯定的な割合は、児童は 2.5%とやや下降、教職員が 5%向上した。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の手立てを立てた。	B	・「田島スタイル」の教科担任制について一定の効果が見られる。「授業が楽しい」と回答する児童がやや減少したのは、毎日のタブレット利用が定着し目新しさを感じなくなったことが一因として考えられる。本校の課題に即し、一層の授業改善を行い、学ぶ楽しさを実感させたい。	
2	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均、県平均を上回った。 ○創立４９年目となり、校舎・施設等に老朽化が見られるが、定期点検と必要な修繕を実施し、大きな事故等は発生していない。昨年度、医療機関を受診したケガは５１件である。 ＜課題＞ ○心と生活のアンケート結果等によると、自己肯定感の低い児童が多い。個別の課題を抱える児童を把握し、相談・支援を行っている。 ○教職員による施設、設備の安全点検を継続するとともに、計画的な修繕（特に屋外トイレの改修）が必要である。	・児童理解を基盤とした組織的な支援体制の充実	①月１回の学校委員会（生徒指導・教育相談・特別支援教育）を開催し、ICT を活用した配慮を要する児童の継続的な状況把握と組織的な対応を行う。 ②児童アンケート、日常の行動観察等からいじめや問題行動の早期発見や迅速かつ組織的な対応を行う。	①毎月、情報端末を活用した学校委員会を開催し、効果的な支援ができたか。また、必要に応じてケース会議を開催し、支援方法の協議ができたか。 ②学校評価アンケートにおいて、いじめ防止に関わる項目の肯定的な保護者回答が 75%以上となったか。(R4:70%) ③アンケート結果や行動観察に応じた迅速・組織的な対応ができたか。また、必要に応じて専門機関等と連携して支援を行うことができたか。	①情報端末の活用により、効率化を図りながら、学校生活の様子、児童の様子などを協議した。個人や学級の状態に応じてケース会議を随時開催し、いじめ防止、緊急度などへの組織的対応を図った。 ②学校評価におけるいじめ防止に関わる肯定的な保護者回答は 75%と上昇し目標値を達成した。 ③個別の案件について、アンケートや行動観察などに基づき、校内の SSW や SC を始め、関係機関等と迅速に連携し、組織的な支援を行うことができた。	A	・学校・家庭・関係機関との連携を図りながら、児童一人ひとりへのきめ細やかな対応を実施しているが、依然として心の不安が強く不登校傾向の児童が多い。特に支援の効果が得られやすい保護者との連携を大切にしながら、粘り強く取り組んでいく。また Sola ルームの効果的な活用についてさらに検討を重ねていく。	・安心・安全な環境づくりや子どものメンタルケア、いじめ防止の対応などについて、教職員が一生懸命に取り組んでいる。 ・朝の登校時に挨拶をしてくれる児童も多くなり、児童の心が安定している。一方、ケアが必要な児童も増えている。時間がかかるか個別の対応を継続的に行ってほしい。 ・施設の点検も細かに行われていてよい。 ・屋外トイレの改修が無事に終了し、今後、学校や地域の行事でも活用できそうでよかった。
		・安全な学校生活が送れるための教職員による安全点検及び児童への注意喚起	①毎月の安全点検を全職員で確実に行うとともに不具合箇所への迅速な対応を行う。 ②生徒指導部の取組による児童の安全意識の醸成を図る。	①学校評価アンケートで安全や環境整備に関わる項目の児童の肯定的な回答の割合が 85%以上となったか。 ②朝会等で児童の安全への意識を高める講話をしたり、「田島小強い子の生活」を守って生活するよう学級・学年で指導を行ったりできたか。	①学校評価アンケートでの安全や環境整備に関する肯定的な回答割合は 87%であった。 ②講話・生活朝会、避難訓練等の様々な機会において、児童へ安全への意識を高め学校生活を送るよう学校全体や各学級での指導を繰り返し行った。	A	・安全な生活が送れるよう教職員による安全点検と児童への注意喚起を引き続き行う。さらに、体育館扉などの施設・設備の老朽化による修繕を計画的に進める。	
3	＜現状＞ ○昨年度、立ち上げた学校運営協議会において本校の目指す児童の姿について熟議を重ね、自ら考え進んで行動する児童の育成や次年度の開校 50 周年に向け、学校・家庭・地域で連携を強化することを共有した。 ○学校ホームページや SNS を活用し、教育活動の様子や学校からのお知らせ等による情報発信を増やしてきた。 ＜課題＞ ○学校運営協議会の更なる周知及び熟議内容を精選し、学校教育活動の充実を図る必要がある。 ○リニューアルされた学校 HP を親しみやすく閲覧しやすいものにすること及び情報発信に係る人員・時間の確保をする必要がある。	・家庭・地域と連携した教育活動の実施	①学校運営協議会において、実態を踏まえた具体的な方策を考え、学校・家庭・地域が協働して取り組む。 ②学校運営協議会を核とし、課題解決に向け、関係機関等との連携強化を図る。	①年３回の学校運営協議会を確実に実施し、各立場から取り組むことができる改善策を熟議し、実施することができたか。 ②地域や企業等との連携・協働した活動を２学年以上で実施することができたか。	①学校運営協議会では熟議を通し、積極的な挨拶の大切さと５０周年に向け挨拶により家庭・地域とつながりを一層深めることを再確認した。 ②生活科の学習や人権の花運動などで地域や企業との連携・協働した活動を２学年以上で１０回以上実施した。	B	・学校 HP に加え、学校運営協議会について保護者への周知を促進する。 ・防犯・図書・モルモットなどの各種ボランティアとの連携を密にし、豊かな教育活動を推進する。	・学校ホームページや限定 YouTube 配信などにより学校の様子が積極的に公開されていてよい。さらに、ホームページや動画配信について周知が図られるとよい。 ・家庭や地域が、学校のことをもっと知ってほしい。学校だよりを自治会経由で回覧することも有効だと考えられる。 ・小・中学校で同じように地域との関係を築いてもらえるとありがたい。
		・目指す児童の姿を地域全体で共有するための ICT 活用、教育活動公開	①学校 HP 内に、学校運営協議会に関するページを作成し、コミュニティ・スクールで熟議した内容等の情報を共有する。 ②学校行事等の学校 HP への掲載や YouTube 配信を行い、子どもの活動や成長の様子を公開し、学校の教育活動や児童の成長への関心を高める。	①学校評価に関するアンケートで家庭・地域との連携に関する項目の肯定的な回答の割合を向上させることができたか。 ②全学年において、学校行事や教育活動の様子を、YouTube 等で発信することができたか。	①学校評価アンケートにおいて家庭・地域との連携に関する項目の肯定的な回答割合は教職員、保護者、地域すべてで 2.5～7.5%上昇した。 ②各種便りを 67 回、児童の様子を 44 回 HP 掲載するとともに、学校行事等の限定 YouTube 配信を 20 本実施した。（12 月末現在）	A	・閲覧しやすい学校ホームページを引き続き構築していく。また、ブログ機能を活用した「児童の様子」について一層発信していき、地域に開かれた学校づくりを推進する。	
4	＜現状＞ ○国・市の平均よりも１人１台のタブレット端末を積極的に活用した授業が実施できている。 ○ICT を有効に活用した児童の読解力向上を目指した校内研究の３年次である。 ＜課題＞ ○課題である読解力向上に向け、引き続き実践的な研究を深める。 ○ICT を効果的に活用した質の高い授業づくりについて実践を積み重ねる。	・タブレット端末の効果的な活用と子どもの読解力向上を実現する校内研究の実施	①GIGA タイムを設定し、子どもの情報リテラシー教育を行う。 ②研修主任を核とした「読解力向上」についての組織的な学校研修やエバンジェリストを中心とした ICT 活用研修を実施する。 ③各教科における公開授業について teams を活用し、教員相互で授業改善の視点をもった気付き（成果や課題等）の共有を行う。	①GIGA タイムを通して、全児童が安全かつ適切にタブレット端末を活用することができるようになったか。 ②指導者を招聘した年２回の研究授業やエバンジェリストを中心とした ICT 研修を学期に１回以上実施できたか。 ③各教員の公開授業から得た気付き（成果・課題等）について、Teams 内に参観者からの入力がされているか。	①児童の端末を利用について特にトラブルはなかった。端末活用調査において「ほぼ毎日」との回答割合が 66.9%となり、市平均より約 1.8 倍上回った。 ②市教委より指導者を招聘し、２回の授業研究会を実施したり、エバンジェリスト等による自主的な ICT 研修を学期に３回行ったりして読解力向上を核とした校内研究を充実させた。 ③公開授業について管理職以外の参観者相互では得られた気付き等を述べ合っていたが、Teams 内のファイル入力は後半、不十分であったので共有方法について検討していく必要がある。	B	・児童の情報リテラシーの向上に向けた、トラブルがなかったことに慢心せず定期的に指導を行っていく。 ・今年度の研究成果をまとめ、次年度からの新たな学校課題研修において成果を活用し実践的な研究を進めていく。	・情報リテラシーの向上に向けた取組は、今後さらに進めていってもらいたい。 ・タブレットが活用される一方で、漢字の読み書きの習熟が図られるか心配である。 ・教員相互の授業参観も効果的でさらに進めてほしい。